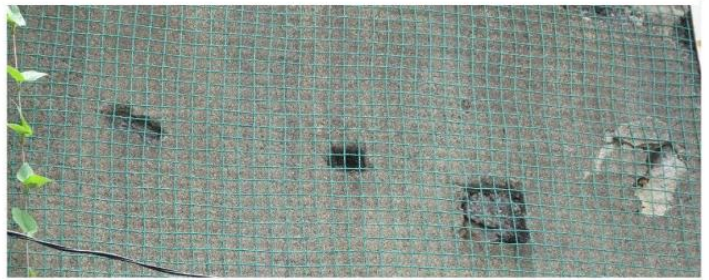


月刊 JMITU ティニコカ



機銃掃射痕（昭和を残された駅）

7月号

日本金属製造情報通信労働組合大田地域支部
セガ グループ分会 2024 年発行

No.475

JMITU

2025年運動方針

秋闘・年末一時金準備

24春闘は、日本が30年もの間、賃金さがり続けてきた結果、経済・社会のひずみと行きづまりを招いていることを示しました。こうした

背景には「新時代の日本の経営」に基づく、財界・大企業による利益本位の労働者使い捨ての政策があります。

政府・財界は今、さらに「ジョブ型賃金（成果主義）」の導入をすすめ、労働者間に格差と分断を広げようとしています。また、労働時間などの最低規制を形骸化させる労働基準法の第改悪を準備しています。

生産性の低い産業や企業が

ら、DX（デジタル技術）など高成長産業への「労働移動」は「中小企業切り捨て」政策そのものです。

こうした財界・大企業のあらたな労働政策を阻止することは2025年の最重要課題です。

いま、自民党政治が末期状況に陥っています。「裏金づくり」事件が発覚し、インボイス、社会保障や教育費の負担増など、自民党政治の長年の失敗による暮らしの困難と一体となった国民の怒りが一気に噴き出しています。平和もめぐつても、自衛隊と米軍の一本化など「戦争をする国」

づくりをいつそうすすめており、憲法と平和の危機が深まっています。

今私たちは「賃金さがり続ける国」を続けるのか、それとも「賃金上がる国」への転換を図るのか、また金権腐敗の自民党政治を続けるのか、それとも自民党政治を終わらせ、国民の暮らし、憲法・平和・民主主義を守る政治への転換を図るのかが鋭く問われる「歴史的転換点」に立っています。

大企業での大幅賃上げ

大企業の賃上げの最大の理由は「若手の人材獲得」です。そのために、初任給の引き上げや若手の技術系などには思い切った引き上げを図るものの、労働者全体の底上げにはなっていない。

特にジョブ型賃金が導入されているところでは、40歳以降の労働者の多くは賃上げがゼロや低額の賃上げに抑えられ、また、低評価の場合は賃下げもあるなど、大半の労働者は回答通りの賃上げとなっておらず、労働者間の格差と分断が一段と広がりました。

秋闘・年末一時金準備

どの企業も労働者の獲得と定着が重大な経営課題となっています。多くの企業では労働者の採用もままならず離職も止まりません。

若者が安心して働き続けられる賃金・労働条件と職場環境、若者にとって魅力があり成長できる職場を作ることが秋闘の最重要課題に位置付けていきたいです。

掌編小説

元の木阿弥

仙洞田一彦

いつものように、正午前の

天気予報を、テレビで見っていた。やかんがピーピー、笛を吹きはじめた。ピピピピー、だんだん激しくなる。昼飯の粉末みそ汁にそそぐ湯が沸いた。

物忘れのひどくなった一人暮らしの高齢者だから、ガスコンロに火をつけっぱなしにして、忘れてはいけない。何年前か前、湯が沸いたのに、火を消し忘れて、やかんの蓋についている合成樹脂製のつまみを溶かしてしまった。それで湯が沸くとピーピー音を立てるやかんを買い、使うようになった。

立ち上がり、流し台の横にあるガスコンロの火を消した。ほぼ同時に、テレビの音が消えた。画面に目をやると暗くなっていた。

ガスコンロとテレビのスイッチが連動している——いくらぼけ老人の家のテレビでも、そんなことはないだろう。そう思いつつ、ガスコンロに火をつけてみた。

ピー、ピ、ピ。

やかんが笛を吹く。きわめて当然、テレビ画面は暗いまままだ。ガスコンロの火を消した。もしかすると正午のニュースは放送中止。重大事件の発生か。事件発生なら放送するだろう。テロで放送局占拠。それなら占拠した奴らが放送するだろう。知っている限りといっても知れたものだが、

考えを巡らせたが、今のところそれはあり得ないかもしれない。でも安倍元首相の時も、最近のトランプ元大統領への銃撃も、ありえないだろうと思われたことが起こる。たんに私の頭で考える範囲を、世間が超えているだけのことかもしれない。

それともアパートの共同アンテナの工事か。仕事なら昼休みに入るだろう。正午から工事ということは無い。午後一時に止まったのなら工事かもしれない。前にアンテナの工事で、見られなくなったことがあった。その時は部屋のポストに事前連絡のチラシが入っていた。今日は、工事があるという連絡は入っていなかった。

まさか故障。いまテレビっ

ていくらぐらいするのだろう。三、四ヶ月前、電気洗濯機が故障した。また出費か。

ガタ、ガタ、ガシャーン、ボタンボタン。

洗濯物を入れ、洗剤を入れて、ふたをした。するとおそろしい音を立てた。洗濯機も大きく右に揺れ、左に揺れた。あわててスイッチをオフにした。仕方ない。新しい電気洗濯機を買った。

今度はテレビかよ。と思いつつ、ほぼ正午に切れたことに意味があるか、とこたわつてもいた。たまたま偶然の一致なのか、それとも何か。

割り切れない気持ちのまま、みそ汁の粉末の入った椀に湯を注ぎ、昼飯にした。食卓の向こう側にあるテレビ画面は暗いままだ。洗濯機はほぼ三

十年使った。テレビはそんな
に経ってないはずだなあ。

テレビがついていないから
か、いつになくいろいろな考
えが頭を過る。

洗濯機の時も考えたことは
考えた。洗濯は週に一回しか
しない。洗濯機が壊れていて
も、コインランドリーが近く
にあるから、往復する面倒く
さはあるが洗濯そのものは
困らない。どうせ時間が自由
になるのだから、そんなに氣
に病むことはない。しかし、
自分の着たものとはいえそれ
を持って行き、持って帰る。
習慣がないから考えるだけで
おっくうになる。洗濯機とい
うものは、電気屋さんに行っ
ても、すぐにも買えるものなの
だろうか。製品を一週間待ち、
二週間待ちなんてことにはな

らないだろうか。すると、コ
インランドリーに通わなくて
はならない。氣が重くなるば
かりだった。

洗濯機が故障した日は雨が
降っていた。午後四時ごろ止
んだ。歩いて十五分くらいの
電気屋に行った。その電気屋
で、エアコンもテレビも買っ
ているはずだ。高齢者の記憶
だから、あてにはならないが。
案ずるより産むが易し。五
時半ころには新しい洗濯機が
届いた。

今は違う。洗濯機の時はず
だった。今、外は炎天下だ。高
齢者は外出を控えてください
という。言われなくても家を
出たくない。十五分も歩きた
くない。

くよくよ考えるのも、テレ
ビ故障のためか。テレビがつ

いていると考えなくなる。し
かし、考えなくなるのも問題
だな。テレビを見ていても飯
の味は分からないが、あれこ
れ考えていても飯の味は分か
らない。

洗濯機は一週間余裕があつ
たが、テレビは毎日のことだ。
朝飯、昼飯、夕飯、テレビを見
ながら飯を食う。夕飯は晩酌
しながらだから時間も長い。
酒が入れば、何もやる氣が起
こらないから、だらだら、だ
らだらテレビ漬けになる。

テレビの故障は、こうした
だらしない生活を立て直すき
っかけになるのではないかな
どと、考えてみたりする。考
えてみただけだ。いや、これ
を機にテレビと絶縁し、若い
先短いし、限られた時間だけ
ら、世界の名作小説を読むこ

とにしたらどうだ。

食器を流しに置いた。

テレビと絶縁などと思って
いながら、テレビの電源を入
れてみた。映像が出た。一分
経ったかどうか、映像が消え
た。ちよつと置いて、電源を
入れた。また映像が出て、す
ぐ消えた。原因を考えたが、
無論わからない。やっぱ新
しいのを買うしかないか、と
思う。

何年前か、近くにショッピ
ングセンターができた。そこ
に一階にスーパーがあるので
毎日のように買い物に行つて
いる。その二階に電気屋があ
るのを思い出した。今日も、
夕方買い物に行く予定だ。そ
の時見てみようと思った。テ
レビと絶縁なんてこと考えら
れないのだ。中毒。依存症。

いつ買ったのだろうと思ひ、色々な取扱説明書の入っている引出の中を探した。二〇一年購入だ。十万円近い値段。十三年か、もう壊れたか。毎日六時間くらいだろうか。これだけ使ったのだから、一日当たりにすれば安いものなのか。

昼食後は昼寝。夕方五時近く、例によつて買い物に出た。先にエスカレーターで二階に上がり電気屋に行った。当時は安くなっているようだ。並んでいる画面の一つでニュースをやっていた。世界中でコンピュータがおかしくなっている。アメリカでは飛行機が飛べないほどだという。「え、もしかするとうちのテレビもその影響でおかしいのか」と思った。この電気屋で

買うか、いつもの電気屋で買うかは別にして、この世界的なコンピュータ障害が収まった後にした方がいいと思つた。じつと画面を見つめていたら、店員が近寄つてきていった。

「お探しですか」

「いや」

私は売り場を離れて、一階のスーパーに夕飯の弁当を買いに行つた。

静かな晩酌だった。何にもすることがない。しかし、考えてみれば、テレビを見て過ごしている時だつて、何にもしてないのだ。何にもしてないでなく、テレビを見てるじゃないかと言われればそうかも知れないが、へ理屈のようにも思える。テレビを見ているときは思わなかったが、

無為な時間が流れていたのだ。こうして一杯やりながら人生を振り返るなんて、なんと充実した時間だろう。

目を閉じる。様々な思いが脳裏を過る。考えがまとまるわけではないが、なんとなく充実した時間にも思えてくる。また一口、目を閉じる。過去

の出来事が脳裏に浮かぶ。なぜか反省ばかりだ。残された時間をいかに過ごすか。私の人生最後の課題だ。テレビ漬

けの生活から抜け出そう。持ち上げた五百ミリリットルの合成酒の缶をコップに傾けたが、ちよろつと入っただけ。それを飲み干すと、衝動というしかない。後から考えても何を思つて、そんな行動をしたのかも分からない。しいて理由をつけるなら、晩酌

のアルコールが回つたからか。

立ち上がつてテレビを少し斜めにし、後を見た。線がなくなっているのは、電源コードとアンテナの端子のみ。そこでアンテナの端子を押し込んだ。正確に言うくと、ちよつと押してみただけに過ぎない。テレビの位置を戻し、電源を入れた。画面が出た。音も出た。二分、三分経つても絵も音も消えなかった。二十分、三十分でも消えない。ということはアンテナの端子が浮いていただけのことか。

夜の十一時ごろ目が覚めた。食卓の椅子に座つたままウトウトしていたらしい。その間、テレビは絵も音も出し続けていたに違いない。テレビを消して、寝る前のシャワーを浴びに浴室に入った。